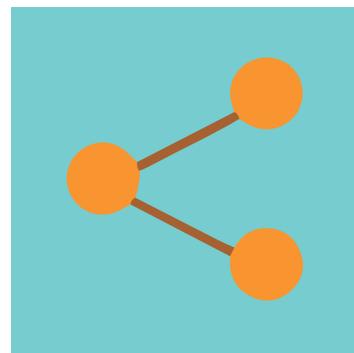
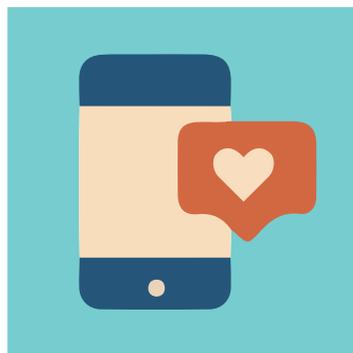
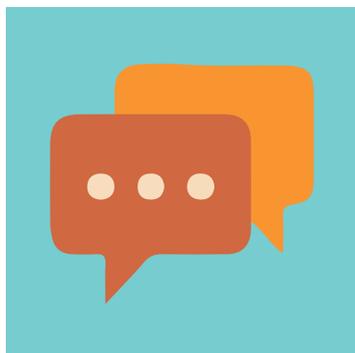


世界の

ユース文化調査

日本版



目次

- 3 はじめに
- 6 調査方法

-
- 7 宗教的態度と行動
 - 18 個人的経験と葛藤
 - 29 ジェンダー・アイデンティティと人間関係
 - 37 ネット生活とその影響
 - 45 ティーンたちへの影響と指導的な存在
 - 54 教育とキャリア

-
- 57 ONEHOPEについて

はじめに

時代毎に生まれ育ってくる世代(ジェネレーション)は、それぞれがユニークであり、調査することによって、それぞれの世代が世界をどのように見ているのかを知ることができます。現在のティーン*とヤングアダルト世代は、ジェネレーションZとも呼ばれています。日本には、ティーンが800万人近くいて、これらの若者は日本人口の約6%を占めています。

*「ティーン」とは、13-19歳の年代に事を指し、この調査はこの年齢を対象に調査しました。

この調査は、今日のティーンの生活を垣間見ることができるようを実施しました。また、次世代へ福音を届けることに尽力されているクリスチャンの親、教会、そしてミニストリーをサポートすることを目指しています。日本のティーンの影響、葛藤、信念、影響力について、また彼らが「神」、「イエス」、「聖書」、「教会」などについてどう考えているか、共に学びましょう。

このデータは、20カ国のティーンを対象とした、世界規模で行われた調査の一部です。この世代の信仰を細かく調査しており、この種の調査では最大規模なものであると考えています。集められた何千人分ものデータは、このグローバルな世代が共有している価値観、直面している課題、そして人生の答えと希望を見出すために何に頼っているのかなど、彼らの実像を描いています。



アフリカ: ケニア、ナイジェリア、南アフリカ (1,275人のティーンが対象)

アジア: 中国、インド、インドネシア、日本、ベトナム (2,100人のティーンが対象)

ユーラシア: エジプト、オランダ、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スペイン、イギリス (2,936人のティーンが対象)

ラテンアメリカ: アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、メキシコ (1,673人のティーンが対象)

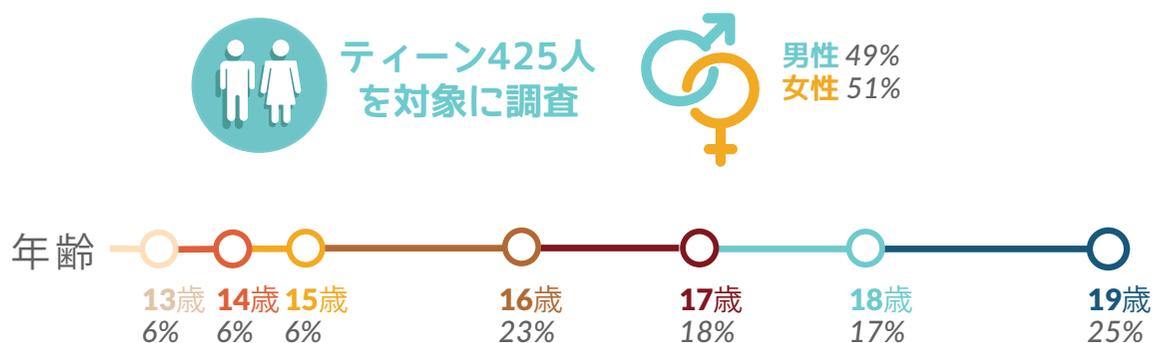
北アメリカ: 米国 (410人のティーンが対象)

United Nations Population Division、人口データベース
<https://population.un.org/wpp/DataQuery/> 2020年8月にアクセス

ティーンについて

日本でティーンたちの調査人数は、実際の日本のティーンの信念や行動が反映されるよう、十分の人数を確保しました。今回の統計データは2020年2月27日から3月23日の間に収集されました。この調査はオンライン上で回答されたため、インターネットに接続できることが参加者の前提条件となっています。

この報告書から新しい知識を得るだけでなく、福音の希望を必要としているこの世代のために、具体的な行動に繋がることを願っています。この調査に記されているデータを通して、ティーンたちがそれぞれ独自の希望や、恐れや、葛藤を持っていることを明らかにしました。これらのティーンたちにはそれぞれに名前があり、生活があり、また永遠の運命を背負っています



家庭状況



所在地

今回の調査では、所在地の人口2,500人未満を「田舎」、2,500~50,000人を「郊外」、50,000人以上を「都市部」と定義しました。



宗教的アイデンティティ

多くの日本人は、神道と仏教の宗教行事に参加しますが¹、正式にはどの宗教にも属していない可能性があります。このことが、今回の調査でティーンの大半が無宗教であると答えた理由であると考えられます。

なお、今回の調査では、宗教別の分析や統計的検定に必要なサンプル数を確保するために、回答者の少なくとも10%がキリスト教徒であることを確保する割り当法が用いられました。これらが実際の日本国民のクリスチャンの割合を反映していないことを認識した上で調査をいたしました²。

世界のティーンの宗教



日本のティーンの宗教



¹ 日本の人口の7割もの人が、神道と仏教の両方を信仰しているとデータもあります。
<https://www.statista.com/statistics/237609/religions-in-japan>

² 日本のクリスチャンの人口比率は約2%という調査もあります。出典 世界キリスト教データベース

調査方法

本調査は、日本全国のティーン425名を対象とし、インターネットに常時接続している13歳から19歳の若者を対象に、オンラインパネルを用いて実施しました。また、インターネット使用時間に関する調査においては、1日のネット使用時間の中から学業のためのインターネット利用は特に除外はしておりません。

データの収集期間は2020年2月27日から3月23日で、コロナウイルスのパンデミックに対する国の対応が最初に行われた時期と重なっています。そのため、このデータは、不明瞭な時代を生きるティーンの考え方や行動を正確に表していると考えています。調査は全72問で構成され、Centiment Research社を通じて配布されました。また、品質管理のために、簡単な質問をアンケートの中に散りばめ、誤って回答した場合は失格としました。

定義

クリスチャン

エホバの証人やモルモン教徒ではなく、クリスチャンであると自認するティーン。

コミットしているクリスチャン

エホバの証人やモルモン教徒ではなく、クリスチャンであることを自認し、更に以下の本調査独自の条件を満たすティーン。

- 神が存在し、神との個人的な関係を持つことができると信じている
- イエスが神の子であることを信じている
- 罪の赦しは、イエス・キリストを信じることによるのみ可能であることを信じている
- 聖書は神の言葉であることを信じている
- 毎日または毎週、自ら聖書を読んでいる
- 毎日または毎週、祈っている

なお、コミットしているクリスチャンのティーンは、カトリック、セブンスデー・アドベンチスト、正教会、その他のキリスト教の宗派を含みます。

その他の宗教

仏教、ヒンズー教、ユダヤ教、イスラム教、その他、キリスト教以外の宗教と答えたティーン。

無宗教

宗教を持たない、あるいは無神論者や不可知論者であると答えたティーン。

宗教的態度 と行動

日本の調査

発見したこと



日本のティーンは、世界の同世代の中で最も宗教心が低く、神やイエス、聖書についてあまり考えたことがないと答えています。



約半数のティーンは、誰かに誘われたら教会に行くかもしれないと答えています。

両親との会話が宗教観を変える可能性が最もあると答えています。



日本のティーンの**57%**は、クリスチャンに会ったことがないと答えており、この数字は調査した国の中で最も多いです。クリスチャンの知人がいる人は、彼らは親切で思いやりがあると答えています。



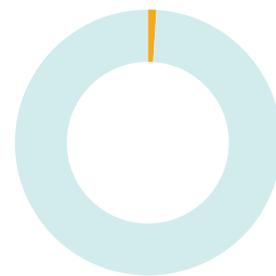
クリスチャンティーンのうち、神が存在し、神と個人的な関係を持つことができるかと信じているのはわずか**34%**でした。世界のクリスチャンのティーンの**69%**に比べてとても低い数字です。



日本では、クリスチャンのティーンの**49%**が聖書を読んだことがないと答えたのに対し、世界平均は**40%**です。



「コミットしているクリスチャン」は日本のティーンの**1%**のみです。（「コミットしているクリスチャンについては14ページを参照ください」）



自分の信仰を他の人に伝える責任があると答えたクリスチャンのティーンは、世界のクリスチャンの**56%**に比べて、わずか**37%**です。

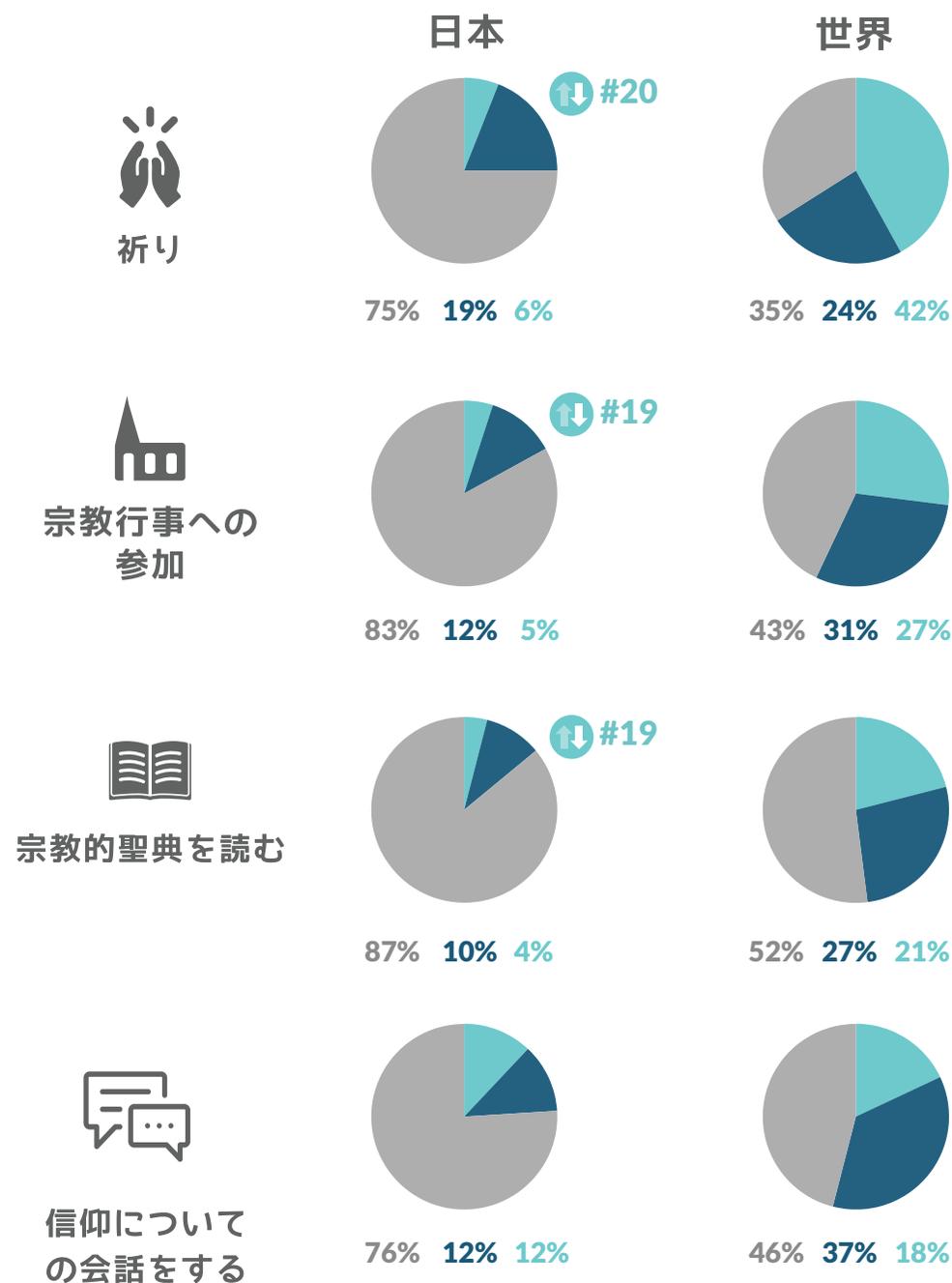


宗教的習慣

日本のティーンの3人に2人が「自分は無宗教だ」と答えています。ですから、日本のティーンは、祈りを捧げたり、宗教行事に参加したり、宗教的な聖典を読んだり、信仰についての会話をしたりといった宗教的な活動は、世界的に見てとても少ないです。

■ 少なくとも毎週 ■ 毎月または年に数回 ■ 全くない

📍 調査した20か国中の順位



キリスト教に対する考え方

今回の調査では、日本のティーンが神やイエス、聖書についてどのように考えているのか、貴重な洞察を得ることができました。当然のことながら、無宗教のティーンの大半は、キリスト教について無関心であり、考えたことがないと答えています。また、日本のクリスチャンティーンは、神と聖書に関する理解が少ないことがわかりました。

■ 無宗教 ■ クリスチャン ■ その他の宗教

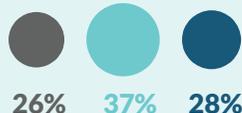
● 神について

神は存在し、個人的な関係を持つことができる



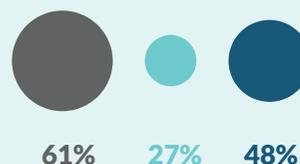
世界のクリスチャン: 69%

「善」と「悪」のような見えない力は信じているが、人格的な神は信じていない



世界のクリスチャン: 21%

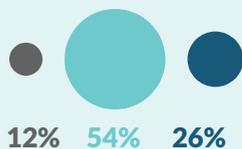
神について考えることはない



世界のクリスチャン: 8%

● イエスについて

イエスは神の子



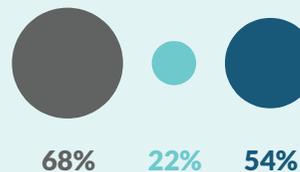
世界のクリスチャン: 71%

イエスは教師や賢人として学ぶ価値がある



世界のクリスチャン: 17%

イエスのことを考えたことがない



世界のクリスチャン: 9%

● 聖書について

聖書は神の言葉である



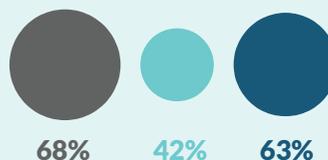
世界のクリスチャン: 58%

聖書は重要な聖典としての価値はあるが、神の言葉ではない



世界のクリスチャン: 17%

聖書についてあまり考えたことがない



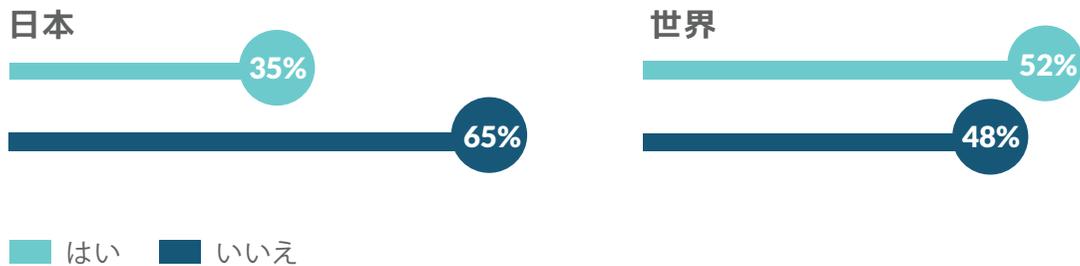
世界のクリスチャン: 17%

何が彼らの心を変えるのか

それぞれの宗教が教えていることは異なり、排他的であると理解している日本のティーンは多いです。「すべての宗教が同じような真理を教えているか」という質問に対して、日本のティーンのほとんどが「そうは思わない」と答えました。世界のティーンに比べて、日本のティーンはこの質問に同意しない傾向にあります。



どの宗教も同じように正しいことを教えているのでしょうか？



宗教観を変える可能性が最も高い要因

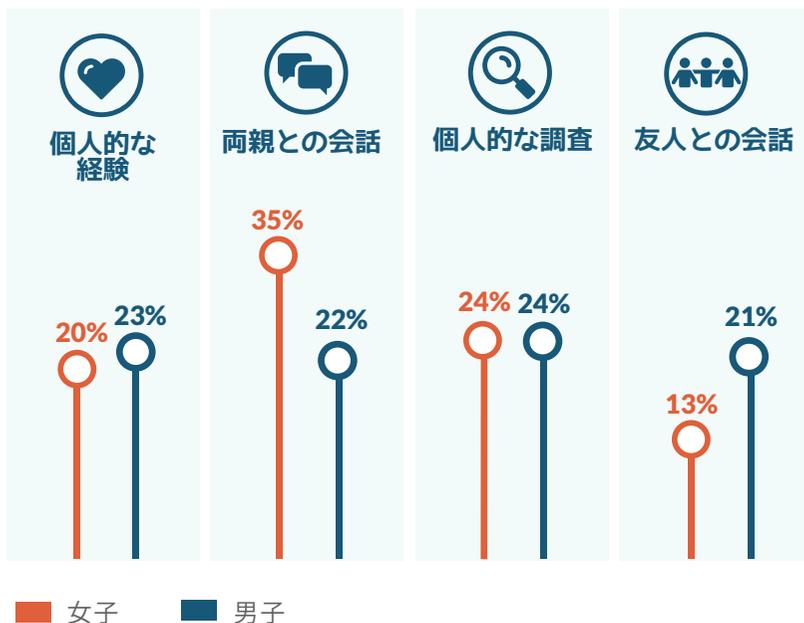
- 1 両親との会話: 29% ↑ #3
18% 全世界
- 2 ウェブ上や書籍で個人的に調べる: 24%
26% 全世界
- 3 祈りへの答えのような個人的な経験: 21%
37% 全世界
- 4 友達との会話: 17%
8% 全世界
- 5 宗教指導者からの教え: 9%
12% 全世界

↑ ↓ 調査した20か国中の順位

ティーンが自らの宗教観を変えるには何が必要なのでしょうか。両親との会話によって宗教観が影響されると答えたティーンの数で、日本は調査した20か国中3番目に多いことがわかりました。また、「自分で調べたことを信じる」、「祈りに答えられたなどの個人的な体験に動かされる」と答えた割合もかなり多い傾向にありました。その反面、「宗教的な指導者の教え」は、最も影響力の低い選択肢でした。

性別による違い

私の宗教観を変える可能性が最も高いもの



男子と女子では、影響を受けるものが若干異なります。女子は男子よりも、宗教観について両親に相談すると答える割合が多く、男子は、全体的に均一ですが、友達に相談すると答えた割合は女子よりも多いです。

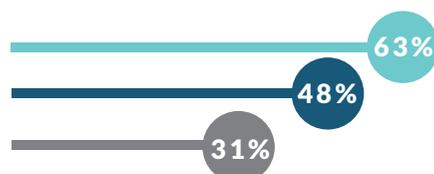
クリスチャンのティーンを理解する

今回の調査では、クリスチャンのティーンの詳細な信仰や行動を正確に把握するために、ティーンの間答者を十分確保しました¹。調査対象となったクリスチャンのティーンの大多数は、自分の信仰心や信仰の旅路が重要な自分のアイデンティティであると答えています。また、34%のクリスチャンティーンが、少なくとも週に一度は、自分とは異なる信仰をもつ人と信仰について話すか答えています。クリスチャンが自分の信仰を重要視し、一部の人はそれを周囲の人と共有していることが見受けられます。

信仰の重要性

■ クリスチャン ■ 他宗教 ■ 無宗教

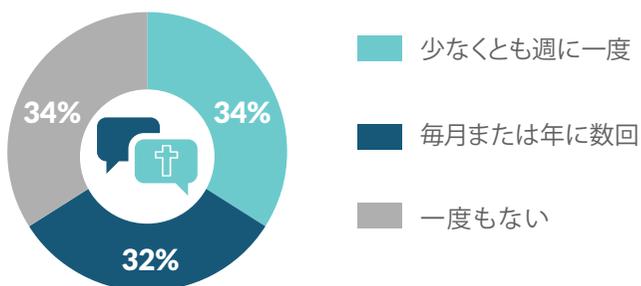
私の信仰の旅路は自分のアイデンティティの重要な部分である



¹ 回答者のうち41名がクリスチャンとして自認しており、そのうち22名がカトリックです。

信仰についての会話

信仰を共有していない人と信仰についての会話をする頻度



しかし、クリスチャンのティーンの宗教的習慣を調べてみると、多くのティーンは、一貫した霊的規律のある生活を送っていないことが明らかになりました。クリスチャンティーンの半数は、聖書を読んだことがないと答え、毎週礼拝に参加していると答えたのは5人に1人程度でした。日本のクリスチャンにとっては、祈りも習慣になっておらず、世界のクリスチャンティーンの平均値の半分以下となっています。

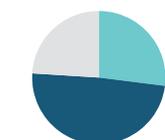
■ 毎週またはそれ以上の頻度
 ■ 毎月または年に数回
 ■ 全くない

日本のクリスチャン

世界のクリスチャン



祈り



24% 49% 27%



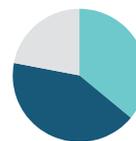
15% 30% 56%



宗教行事への参加



37% 42% 22%



22% 42% 36%



自ら宗教的聖典を読む



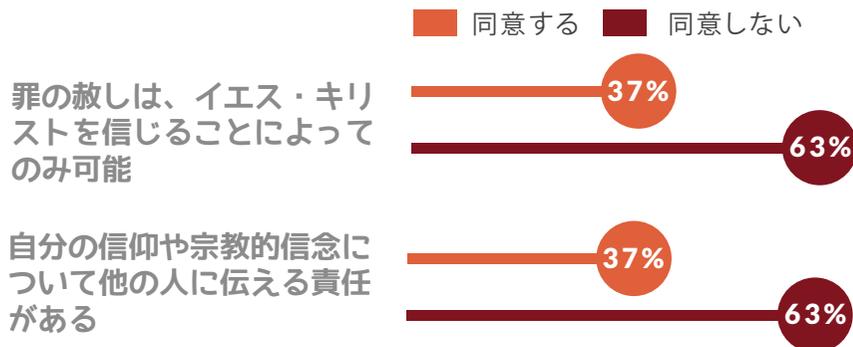
49% 32% 20%



40% 35% 25%

日本のクリスチャンのティーンの49%が 聖書を読んだことがない

また、日本のクリスチャンのティーンは福音が唯一の真理であるということにためらいがあるようです。クリスチャンの3人に2人(63%)は、「罪の赦しは、イエス・キリストを信じることによるのみ可能である」という質問に対して、同意しませんでした。また、クリスチャンティーンの多くは、自分の信仰について他人に伝える責任があるとは思わないと答えています。



少数のコミットしているクリスチャン

私たちは、福音の基本的な真理を理解しているか、聖書を読んだり、祈ったりしているか、と信仰を実践しているティーンに注目しました。この基準を満たしたティーンを「コミットしているクリスチャン」と呼ぶことにしました。日本では、「コミットしているクリスチャン」に分類されるティーンは、他の調査した国の平均の7%に比べ、わずか1%にとどまりました。



なお、これらのティーンは、エホバの証人やモルモン教徒ではなく、クリスチャンであると自認しています。コミットしているクリスチャンは、カトリック、セブンスデー・アドベンチスト、正教会などに属しています。

なお、日本では「コミットしているクリスチャン」に該当する回答者が3名のみであったため、彼らに関する調査結果は掲載しませんでした。しかし、他国のデータを見ると、コミットしているクリスチャンであることは、ティーンズのメンタルヘルスに大きなメリットがあり、自殺のリスクや、同性に惹かれることや、ジェンダーアイデンティティの混乱などの悩みを軽減することが明らかになっています¹。

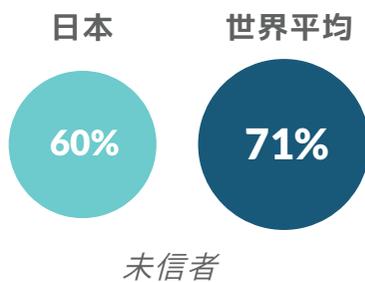
ティーンと教会

日本は、「クリスチャンに出会ったことがない」と答えるティーンは、調査した20か国の中で一番多かったです(57%)。しかし、クリスチャンに出会ったことがあるティーンは、クリスチャンは親切で思いやりがあると答えています。日本のクリスチャンの生活が、キリストの愛の証しとなっているように見受けられます。さらに、日本のティーンは、教会を訪れることにはある程度前向きなようです。全体としては、半数は「招待されたら行く」か「わからない」と答え、半数が「行くのを断る」と答えました。



クリスチャンの印象

知っているクリスチャンのほとんどが親切で思いやりがある

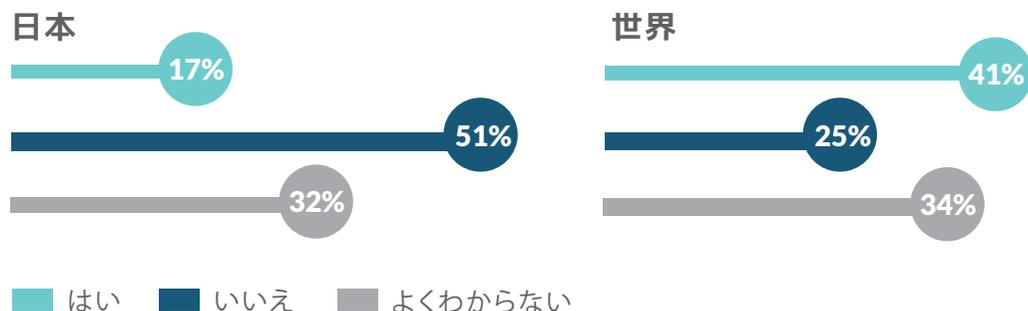


日本のティーンズの57%が「クリスチャンに出会ったことがない」と回答



教会のイメージ

誰かに誘われたらキリスト教会に行こうと思う



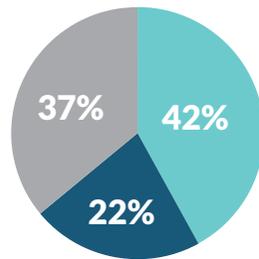
¹グローバルなユースの文化についての調査結果はこちらから
www.onehopejapan.net

私たちは、教会にいるクリスチャンティーンがどのような経験をしているのかについても興味がありました。クリスチャンティーンの約5人に2人が、教会学校が自らの霊的成長に重要な役割を果たしたと答えました。しかし、クリスチャンティーンの約3人に1人は、教会学校に参加していなかったと答えています。



教会学校（子供向けのミニストリー）

教会学校は自分の霊的な成長に重要な役割を果たした



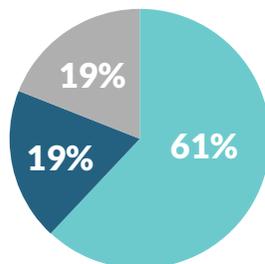
■ はい ■ いいえ
■ 参加しなかった

クリスチャンの回答者の半数以上は、自分の教会にユースまたは青年のための牧師がいると答えています。ただし、この質問に答えることができた教会に通っているクリスチャンの回答人数は多くありませんでした。



ユースミニストリー

自分の教会はユースや青年のための牧師または教師がいる



■ はい ■ いいえ
■ 参加していない

結論

このデータを通して、ティーンが、どのように信仰の道を歩んでいるかを明らかになり、彼らの宗教的アイデンティティ、習慣、視点を理解することができます。また、クリスチャンティーンを信仰の成熟へと導き、未信者に福音を伝えるためのヒントも示しています。

- **日本のティーンの多くは、霊的な真理を意識しないまま生活しており、神や信仰の必要性について考えていないようです。**
クリスチャンである私たちには、彼らに福音を伝える特権と重要な使命があります。どうすれば彼らの目をこれらの真実に向けさせ、人生には永遠の目的があると教えることができるでしょうか？
- **クリスチャンティーン的生活には、基礎的な聖書知識や、習慣化された霊的訓練が不足しています。**
クリスチャンが成長し、成熟するためには、聖書を読むことや祈ることなどの習慣が不可欠です。ティーンが信仰を持ち、人生を変える真理である福音を体験するために、私たちはどのような手助けができるでしょうか？
- **日本のティーンの半数以上が、クリスチャンに出会ったことがないと答えています。**
すべてのクリスチャンには、キリストの真理と愛を証しするという重要な使命があります。クリスチャンティーンが、福音を人に伝えるために私たちはどうサポートできるでしょうか？
- **宗教について何を信じるかを考える上で親との会話は大きな影響をもたらすと日本の宗教について何を信じるかを考える上で親との会話は大きな影響をもたらすと日本のティーンは答えています。**
これは親にとって責任であり、機会でもあります。ティーンたちと信仰についての会話をする機会を作るために、私たちは何をすることができますか？

個人的な体験 と葛藤

日本の調査

発見したこと

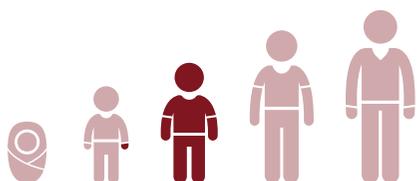


日本では、多くのティーンがメンタルヘルスで悩んでおり、不安やうつ症状のレベルが調査した20カ国の中で最も高いと報告されています。

13～15歳の若い世代は、上の世代に比べて、自殺願望の葛藤、直近での自殺未遂が多い傾向にあります。



直近でネットでのいじめの被害に遭ったことがある、あるいは性同一性障害を抱えていると答えたティーンは、自殺願望や自殺未遂のリスクが非常に高くなっています。



男子よりも女子の方がメンタルヘルスに悩んでいます。世界的にも同様の傾向があります。

日本のティーンは、世界のティーンと比較して、結婚前の性交渉が許容されると考える傾向があります。しかし、直近で性行為をしたとの回答は比較的少なかったです。



5人に1人

日本のティーンの5人に1人は、直近でポルノを見たことがあり、男子は女子の2倍以上の割合でこの報告をしています。

メンタルヘルス



孤独感



高い不安感



うつ



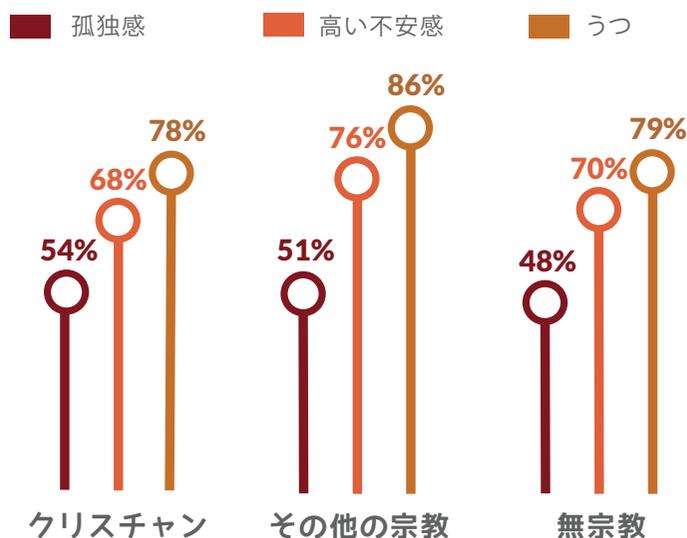
↑ ↓ 調査した20か国中の順位

日本のティーンは、深刻な個人的な問題に直面しているようです。ティーン約10人に7人が、過去3カ月以内に極度の不安を経験したと回答し、10人に8人がうつ状態を報告しています。なお、これらは必ずしも臨床レベルのうつ病や不安障害ではありません。ティーンは、それぞれの用語を自分なりに解釈し、経験したことがあるかどうかを自己申告しています。

調査した20カ国の中で、日本のティーンは、高い不安やうつ症状に悩まされている割合が最も高いことがわかりました。その反面、日本のティーンは、孤独感を訴える割合が世界的に見ても低いことがわかりました。

残念ながら、ティーンメンタルヘルスにおいて、信仰は大きな影響は見受けられませんでした。クリスチャンは、未信者と同様の割合で、憂鬱、孤独、不安を感じています。

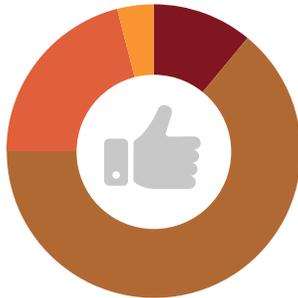
メンタルヘルスの葛藤



¹ これらのデータは2020年2月～3月に収集されたことを留意してください。ティーンは過去3ヶ月の彼らの生活を振り返っています。

また、ティーンたちに、現在の自分の生活を振り返ってもらいました。日本のティーンは、全体的にネガティブな回答をしています。「自分は元気だと思うことが多い」と回答したのは、わずか4人に1人でした。9人に1人は「自分は元気ではない」と回答しました。

自分は元気です



全く思わない **11%**
 ほんの少し／時々 **64%**
 頻繁に／だいたい **21%**
 いつも **4%**

自殺

過去3カ月以内に自殺願望、または自殺未遂があったかをティーンに自己申告してもらいました。日本では、ティーンの6人に1人が自殺願望を持っていると回答していますが、それを実行に移そうとしたという回答はほとんどありませんでした。他団体などによって実施されている調査では、日本の若者の自殺願望や自殺未遂の割合が高いことが示されていますが、それらの調査はより幅広い年齢層を対象としており、より長い期間にわたってデータを測定していることに留意してください。¹

自殺のリスク



■ 日本 ■ 世界

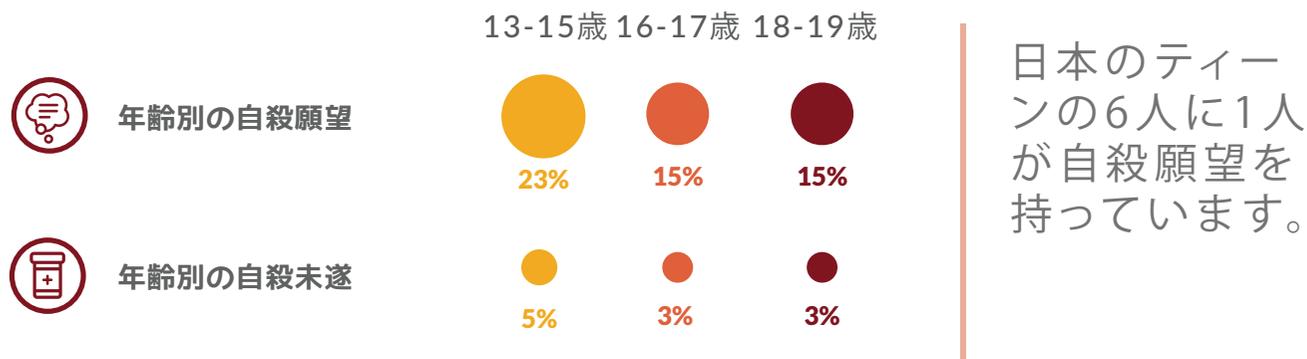
↑↓ 調査した20か国中の順位

¹「第3回自殺意識調査」日本財団(2019) <https://www.mhlw.go.jp/content/r2h-1-3.pdf> Accessed 2020.

P. 15. この報告書では、18-22歳の30%が人生のいずれかの時点で自殺願望を持ったことがあり、11%が人生のいずれかの時点で自殺未遂をしたことがあるとしています。

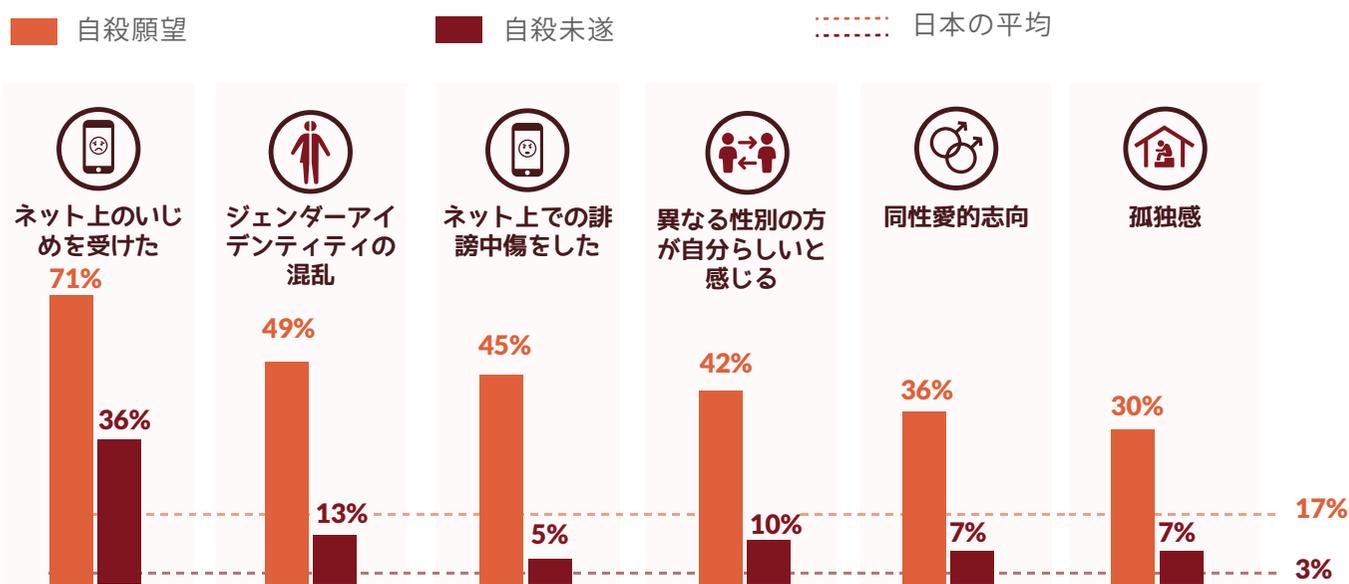
P. 16 18~22歳の3.2%が過去3カ月間に自殺願望を持ったことがあり、0.07%が過去3カ月間に自殺を試みたことがある。

ティーンの自殺願望や自殺未遂の可能性は年齢に関係していると言えます。今回の調査では、13～15歳の若者は、より高い年齢層に比べて自殺のリスクが高いことが観察されました。¹



今回の調査では、ティーンの自殺のリスクに関連するいくつかの要因が明らかになりました。直近でネット上のいじめの被害に遭ったことがあるティーンは、自殺願望や自殺未遂を訴える割合が平均よりもはるかに高いことがわかりました。また、ジェンダーアイデンティティの問題、ネット上でいじめをしたこと、同性愛的志向、孤独感を報告したティーンは、自殺願望や自殺未遂を訴える割合が高いです。これらの行動や経験は、他の様々な行動や経験とともに、ティーンをより高い自殺のリスクにさらすと考えられます。この発見は同じテーマに関する他の研究文献とも一致しています。²

自殺リスクの要因



¹ なお、この調査では自殺未遂経験者の数が少ないため、関連性については慎重に検討する必要があります。

² CDC WONDER Online Database, Underlying Cause of Death, Multiple Cause of Death files 2015-2017. [AmericasHealthRankings.org](https://www.cdc.gov/data/tables/1a17.html), Accessed 2020.

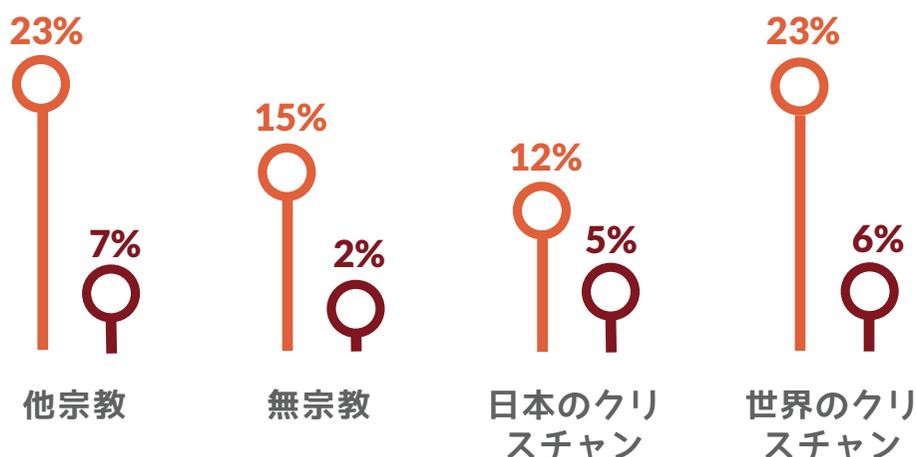
クリスチャンにとって信仰は、この分野でポジティブな変化をもたらします。日本のクリスチャンティーンは、未信者と比べると直近で自殺願望を持ったと回答する割合が低く、また世界のクリスチャンの平均と比べても半分程度の割合でした。しかし、日本のクリスチャンは、無宗教のティーンに比べて、直近で自殺未遂をしたと報告する割合が少し高くなっています。他国を見ますと、コミットしているクリスチャンであることが自殺のリスクを軽減するということが明らかになっています。

信仰がもたらす影響

過去3ヶ月の間に経験した：

■ 自殺願望

■ 自殺未遂



命を絶とうとするきっかけは、必ずしもひとつの出来事ではなく、小さなきっかけや考えの積み重ねであることもあります。全体的に、このデータは、一部の若者が深刻な状況の中にいて、自暴自棄な行動に走っていることを示しています。人生があまりにも無意味だと感じ、命を絶ちたいと思っている若者たちに、私たちの心は痛みます。これらの統計はただの数字としてとらえるのではなく、実在するティーンの声であることを意識しなければなりません。

女子の方が葛藤が多い

性別ごとの自殺リスク

過去3ヶ月の間に経験した：

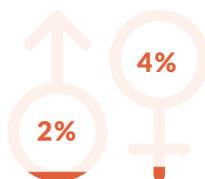


自殺願望

男子 女子



自殺未遂



女子の自殺リスクは男子の2倍以上であり、また女子の方がメンタルヘルスで悩むことも多い傾向があります。この傾向は世界的なもので、調査対象となった20カ国にも見られました。女子のほうが自らの葛藤を自由に言語化できている可能性もありますが、いずれにしても、あらゆる分野でその差は歴然としています。

性別ごとのメンタルヘルス上の葛藤

過去3ヶ月の間に私が経験した：

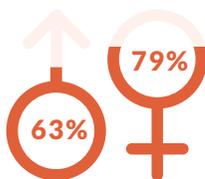


うつ

男子 女子



高い不安感



孤独感



女子の自殺リスクは男子の2倍以上であり、女子はメンタルヘルスについて、男子よりはるかに悩んでいる傾向があります。

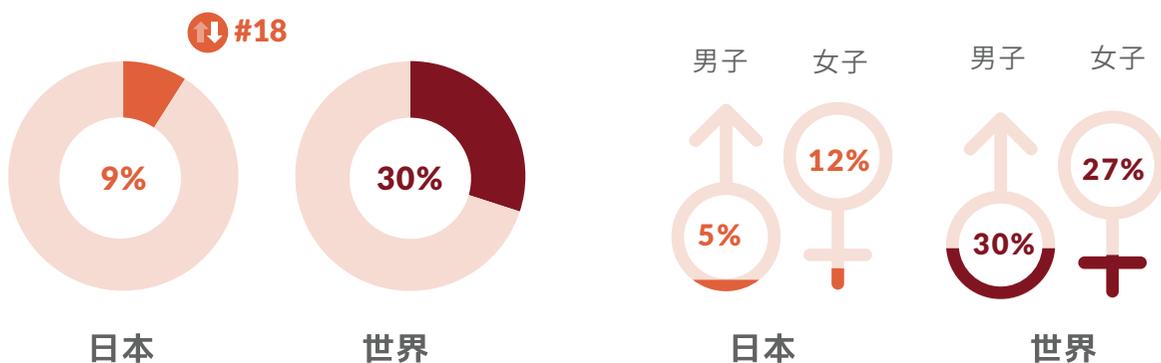
ティーンと性

ティーンの年齢は性的な経験を求める年齢とも言えるでしょう。私たちの調査によると、日本のティーンの大半は、結婚前の性交渉は容認できると考えています。



しかし、今回の調査ではこのような考えを行動に移したと答えた日本のティーンは少なかったです。過去3ヶ月以内に性行為をしたと答えたのは、10人のうち1人未満でした。日本の男子は、女子に比べて直近の性行為を報告する割合が半数でした。この質問に答える際、性行為をしているということはどう定義するかは本人の解釈次第です。また、この統計が結婚外の性行為のみを集計するため、結婚していると回答したティーンは除外しています。

性行為をしている



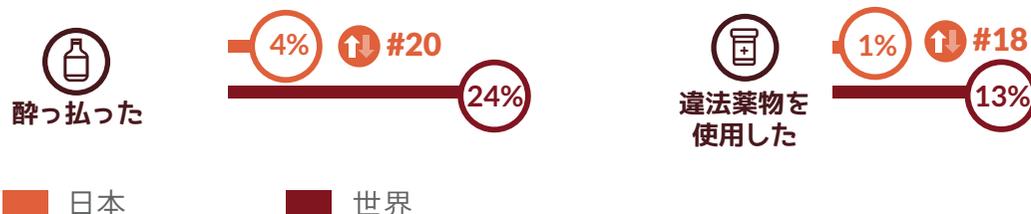
調査した20か国中の順位

その他の葛藤

さらに、ポルノ視聴、飲酒、違法薬物の使用など、若者が悩んでいると思われる分野についても調査しました。日本では飲酒や薬物に葛藤していると答えるティーンはほとんどいませんでした。しかし、一部のティーンにとって、ポルノ視聴は見受けられました。

アルコールと薬物の使用

過去の3ヶ月の間に私は：



日本のティーンの5人に1人が「最近ポルノを見たことがある」と回答していますが、これは調査した国の中で最も低い数字です。男子の方が女子よりもはるかに多く、10代前半(13-15歳)よりも10代後半(18-19歳)の方がより多くポルノを見ていることがわかりました。また、クリスチャンの方が未信者よりもポルノを見たと答えた割合が高く、世界的にも同じ傾向があります。

ポルノの視聴

■ 日本 ■ 世界



最近ポルノを視聴した



↑↓ 調査した20か国中の順位



年齢別ポルノの使用

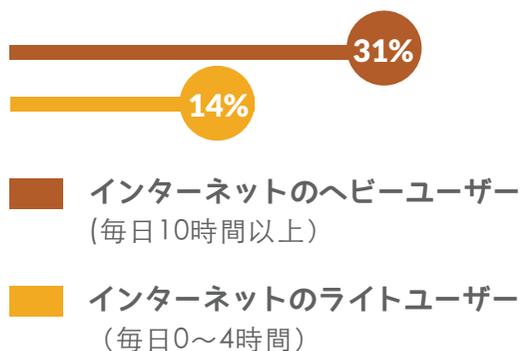


宗教別ポルノの視聴



ネット使用時間別のポルノ視聴

最近ポルノを視聴した



日々、長い時間の間インターネットを使用しているティーンのほうが、短い時間使用しているティーンよりポルノを観ています。

ティーンたちは深刻な問題を抱えていると申告しています。ティーン一人ひとりの状況は異なり、これらの問題の解決もひとつではありません。しかし、この世代の状況の深刻さを認識することが解決の始まりになります。

- **「自分は大丈夫ではない」**
と感じているティーンが多くいます。日本のティーンの4人に3人は、人生がうまくいっていると感じられずに悩んでいます。さらに不安やうつな感情が重なり、ティーンたちは更に深刻な状況にいます。クリスチャンのティーンたちは、無宗教や他宗教のティーンたちと同じように、メンタルヘルスに悩んでいます。私たちはどのようにして、このような問題の渦中で葛藤しているティーンたちに寄り添うことができるでしょうか？
- **自殺願望は深刻な問題です。**
日本のティーンは、調査した他国よりも自殺願望者が少ないという結果でした。しかし、少なからずこのような悩みを持っているティーンがいます。直近で自殺を試みたティーンもいます。10代前半のティーンのほうが10代後半に比べ傷つきやすく、ネット上のいじめなどによって、自殺のリスクは著しく高まります。どうすれば、若者たちに福音の希望を届け、この暗闇に光を照らすことができるでしょうか。
- **男女別の個人的な苦悩の差は明白でした。**
女子特有の葛藤をを理解し、それを乗り越えることができるように、私たちはどのようなサポートができるでしょうか。
- **セックスは聖なるものとしてとらえられていない。**
日本のティーンは、性行為をしていると答える人は比較的少ないものの、全体的には過半数が婚前交渉を肯定しています。人生において何を信じるかが、将来の行動や選択の指針となります。聖書的視点から、性という神からの贈り物についてティーンたちに教えるために何ができるでしょうか？
- **日本だけではなく世界中で、**
ポルノはティーンにとっての重要な問題です。特に、ネットを使用する時間が長いティーンにとっては、膨大な量のアダルトコンテンツが簡単にアクセスできてしまいます。私たちは、この世代をとりこにしているポルノ問題にどう対処すればよいのでしょうか。

ジェンダー・ アイデンティティ と人間関係

日本の調査

日本の調査

日本のティーンは、「性別は生まれつきのものではなく、主に本人の感情や欲求に基づくものである」と答えた割合が、今回調査した20か国で最も多かったです。



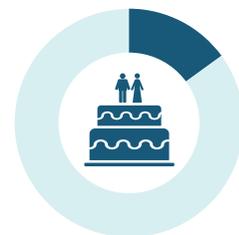
日本のティーンの3人に2人は、人は希望すれば自分の体を変えて別の性別になることがゆるされるべきだと答えています。



女子は男子よりも、ジェンダーアイデンティティは個人の自由であると思っています。



15% ティーンの15%が、結婚は男女間のみで行われるべきだと答えています。



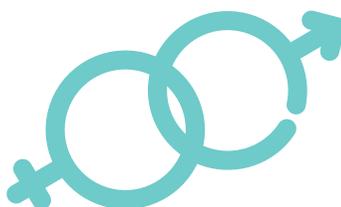
39% 日本のティーンの39%は、結婚は生涯続くものであるべきだと答えています。



1 in 6

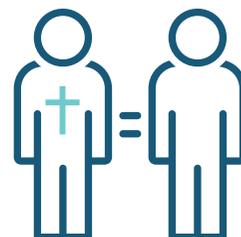


ティーンの6人に1人が「最近自分は別の性別であることが最も自分らしいと感じた」と答えています。



クリスチャンティーンは、クリスチャンでないティーンより多く、性同一性障害や同性愛指向に悩んでいます。

クリスチャンティーンの多くは、ジェンダーアイデンティティに対する考え方が未信者と同じです。

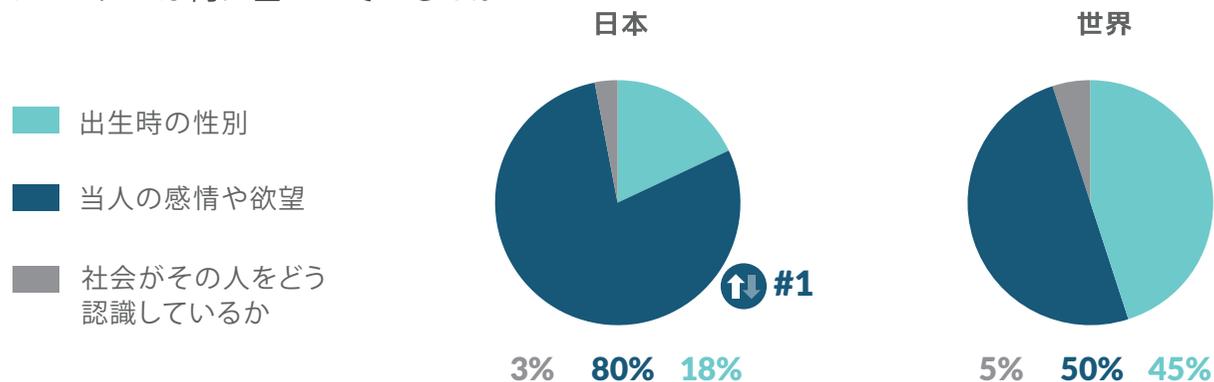


個人の選択としてのジェンダーアイデンティティ

ジェンダーアイデンティティというトピックについて日本のティーンの見解ははっきりしていました。日本のティーンは、今回の調査で、「ジェンダーは、感情や思い、性的魅力に基づく主観的なものである」と答えた割合が調査した20か国の中で最も多くなりました。また、ジェンダーとは「生まれたときの性別に基づいた、客観的な現実である」と答えた割合は、調査した20か国の中で最も低かったです。

性についての見解

ジェンダーは何に基づいているのか



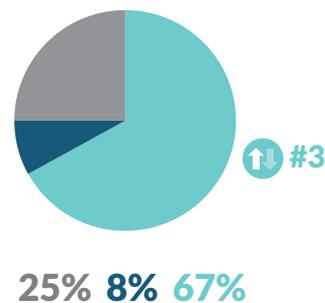
↑↓ 調査した20か国中の順位

日本のティーンは、誰かが自分は違う性別だと感じたのであれば、それについて行動すべきだとも考えています。ティーンの3人に2人は、人が自分の体を変えて異なる性別にしても良いと答えています。

この考え方は、ティーンが年齢を重ねるにつれて強くなるようです。10代前半のティーンよりも10代後半のティーンの方が、ジェンダーアイデンティティは自ら選択するものだと考える人が多いです。

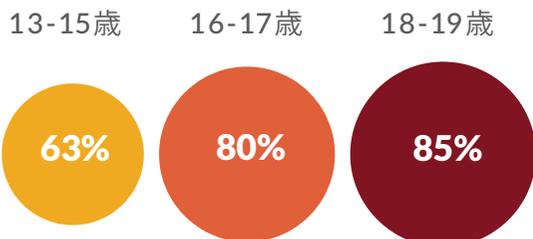
異なる性別になるために体を変えても良いと思う？

● 良い ● 良くない ● 良いかもしれない



年齢別の性についての見解

性別はその人の感情や欲求に基づいている



男子と女子でも意見が異なります。女子は男子に比べて、ジェンダーに対する考え方がより世俗的です。性別は人の感情に基づくものであり、それに合わせて体を変えることは許されるという意見が多いようです。

性別はその人の感情や欲求に基づいている



異なる性別になるために体を変えても良い



世界的に見ますと、クリスチャンティーンは、クリスチャンではないティーンズのジェンダーの見解に反対する傾向がありますが、日本のクリスチャンティーンは、基本的に未信者と同じような見解を持っています。他国を見ますと、ジェンダーについて最も聖書に基づいた見解を持っているのは、コミットしているクリスチャンです。

信仰がもたらす影響

■ 未信者

■ クリスチャン

性別はその人の感情や欲求に基づいている



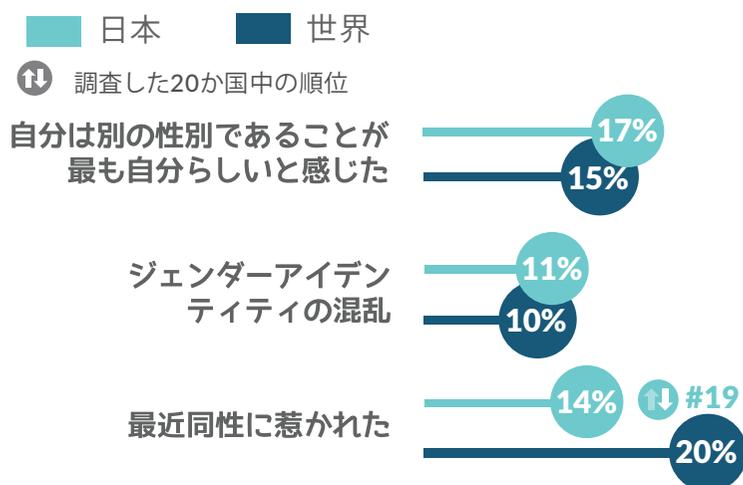
異なる性別になるために体を変えても良い



個人的な経験

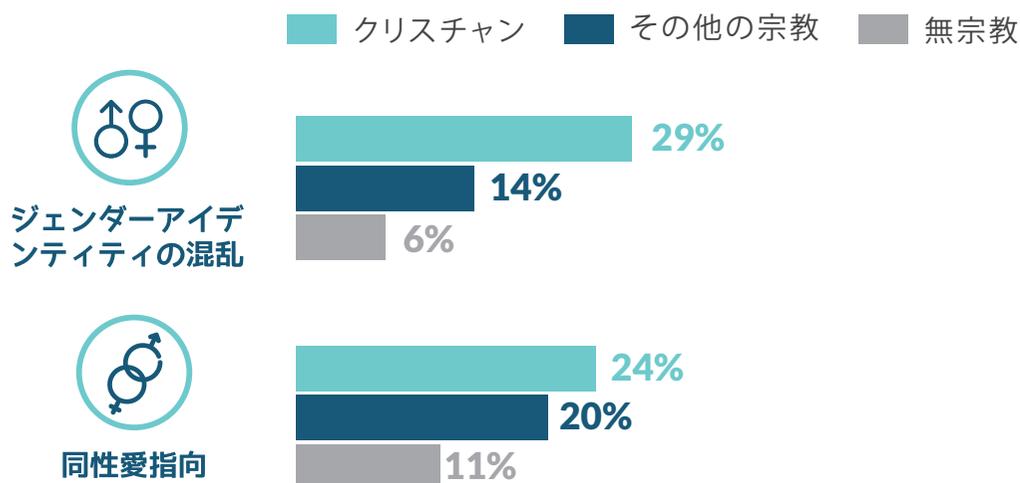
ティーンは、ジェンダーアイデンティティについての見解だけでなく、個人的な経験についても回答してくれました。日本のティーンの約6人に1人は、自分が他の性別であると感じたことがあると答えています。しかし「最近同性に惹かれた経験がある」と答えた日本のティーンの割合は、世界的に見てもかなり少数でした。¹

ジェンダーに関する葛藤



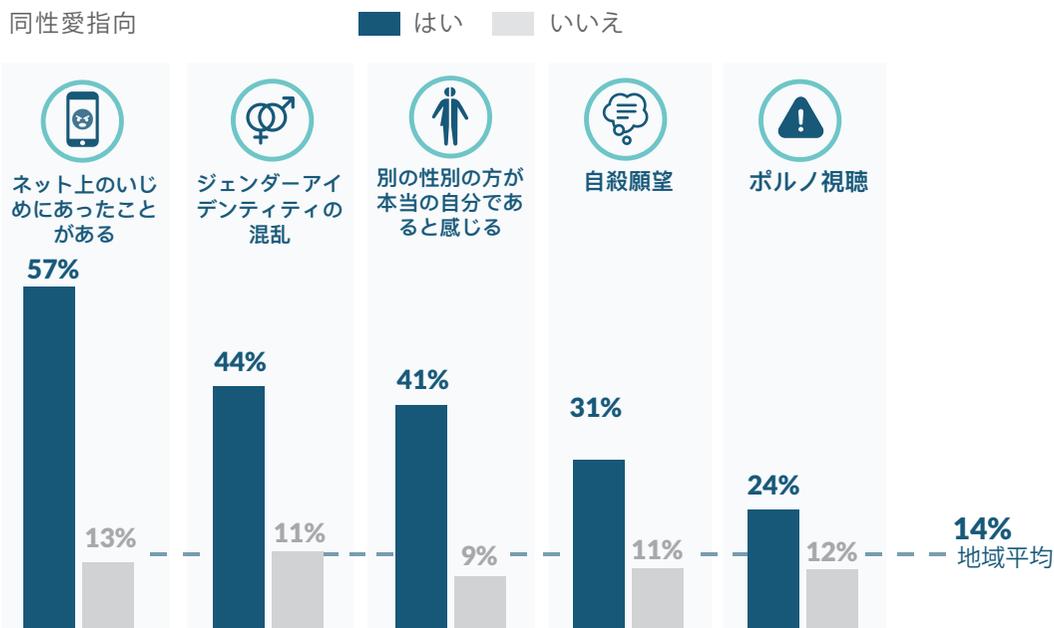
クリスチャンやその他の宗教を信仰する日本のティーンは、無宗教のティーンよりも、ジェンダーアイデンティティの混乱や同性愛指向の問題を抱えているという回答が多かったです。世界のクリスチャンティーンは逆に比較的問題や葛藤が少なく、日本はその傾向とは逆でした。

信仰がもたらす影響



¹ ティーンは過去3ヶ月の彼らの経験を振り返るように指示されていることを留意してください。

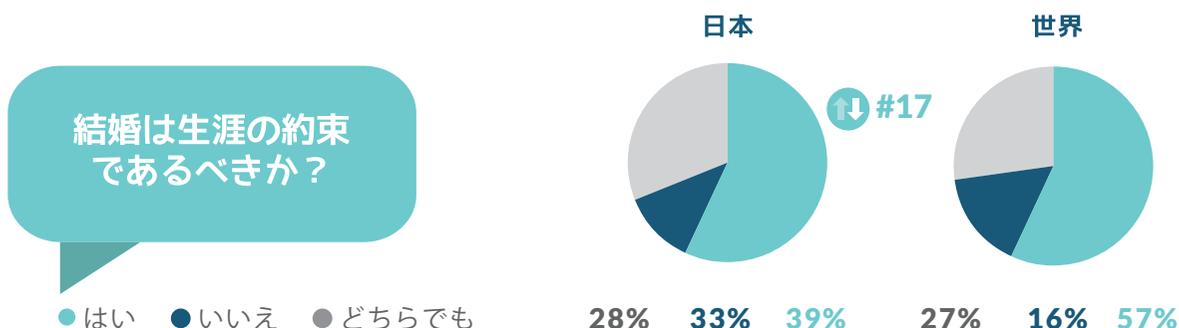
同性愛指向のリスク要因



この問題をより深く理解するために、私たちは同性に惹かれることに関連する経験や行動を調べました。当然のことながら、同性愛指向とジェンダーアイデンティティの問題には密接な関係があります。ジェンダーアイデンティティの混乱を報告した人のうち、44%が同性愛指向を報告しています。また、ネット上のいじめ、自殺願望、ポルノ視聴など、他の行動との関連も見られます。これらのデータは、同性愛指向が、それだけの問題ではなく、ティーンたちは、同時に人生の複数の領域で深く悩んでいることを示しています。

結婚に対する考え

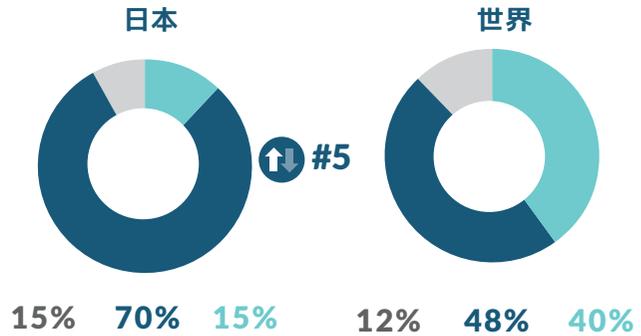
また、この世代は、結婚に対しても独自の考えを持っています。日本のティーンは、世界のティーンと比べて、「結婚は一生の約束であるべきだ」と答える割合が非常に低いです。また、「結婚は男女間だけのものではない」と考える割合が世界的にも高い傾向にあります。



↑ ↓ 調査した20か国中の順位

結婚は男性と女性との間だけのものであるべきか？

● はい ● いいえ ● どちらでも



↑↓ #5 調査した20か国中の順位

同性婚については、女子のほうが男子よりもさらに強く肯定しています。5人に4人の女子が、結婚は男女間に限定されるべきではないと答えています。

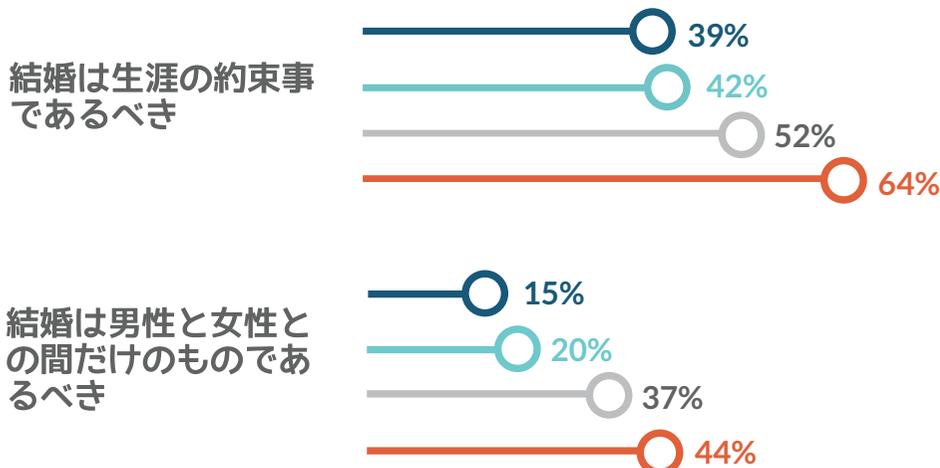
クリスチャンのティーンは、結婚に関する考えは、同世代のティーンとそれほど大きな違いはありません。「結婚は一生続くものであり、男女間のものであるべきだ」と答えた割合は未信者よりもわずかに多いくらいでした。日本のティーンは、世界のティーンと比較して、伝統的な結婚観を持っている割合が非常に低いことがわかりました。

結婚は男性と女性との間だけのものであるべきか？



宗教別の結婚観

■ 日本の未信者 ■ 日本のクリスチャン
■ 世界の未信者 ■ 世界のクリスチャン



結論

今回の調査は、この世代の「ジェンダーアイデンティティ」や「結婚」に関する考え方を知る上で重要なものです。これらのテーマは、個人的な信念に基づきながら、同時に人々の接し方や、社会に影響するものです。人々が自分自身をどのように理解しているか、また他者とどのように関係しているかは、文化に大きな影響を与えます。

- **この世代は、ジェンダーアイデンティティを自ら選択できると考えています。**
日本のティーンは世界の多くの同世代のティーンたちと比べても、性別は主観的なものであり、変えることができると考えています。クリスチャンもこの主流の意見に同意しています。どうすればティーンたちと、このトピックを含め、人生の重要な選択について、会話をすることができるでしょうか？
- **クリスチャンのティーンは悩んでいます。**
この世代のクリスチャンは、ジェンダーアイデンティティや結婚に対する考え方が未信者とそれほど変わらないようです。そして、彼らは未信者よりもジェンダーアイデンティティの混乱や同性愛指向に悩んでいます。ティーンが聖書に基づいた信念を持ち、生き方をするために、私たちはどうサポートできるでしょうか？
- **同性愛指向は複雑です。**
ティーンが同性に惹かれる理由はひとつではありません。今回の調査結果は、ティーンが、ジェンダーアイデンティティの問題、いじめ、自殺願望など、複数の課題を抱えている可能性があることを示しています。目に見えるものだけでなく、ティーンに影響を与えているすべての要因を考慮しなくてはなりません。どうすれば、ティーンたちが、人生のあらゆる面で福音がもたらす自由を体験できるようになるでしょうか。
- **ティーンには、結婚についてのポジティブな例が必要です。**
この世代は、伝統的な結婚観にますます反発しています。日本のティーンの中で、結婚は男女間に限定されるべきだと思える人は少なく、また、結婚が生涯の約束でなければならないかどうかについても意見が分かれています。私たちは、ティーンたちに神の御心に沿う結婚をどうやって示し、教えて行けるでしょうか。ティーンたちがやがて愛のある結婚と健全な家庭を育むことができるように、どうサポートしていけるでしょうか。

ネット生活 とその影響

日本の調査

発見したこと

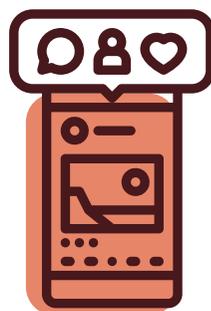


日本のティーンは、1日のネット利用時間は約6時間で、世界平均に比べ1時間強短い結果でした。

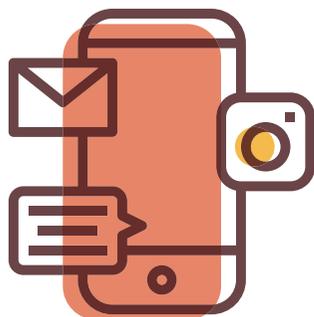
インターネットのヘビーユーザー（毎日10時間以上）であるティーンは、メンタルヘルスでより悩んでいます。



ティーンの92%が毎日動画コンテンツを見ています。



日本のティーンの10人に7人は、SNSで投稿するよりも閲覧に時間を費やしています。



ティーンの70%は、SNSが生活の満足度に貢献していると回答していますが、半数以上は、SNSを利用することで、悲しみ、不安、憂鬱な気分になることが時々または頻繁にあるとも回答しています。



年上のティーンの方が年下のティーンよりも、SNSに投稿する内容は、自分の本当の姿を反映していると答えています。

ティーンたちとインターネット

この世代は、世界がこれまで経験したことのないほどインターネットに接続している世代です。ティーンたちはインターネットやSNSの存在が当たり前の世界で育ち、幼い頃からスマートフォンを手にはしています。

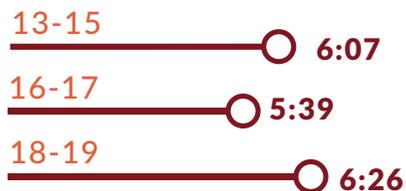
ネット利用者であることが、この調査に参加するための条件でした。この調査活動の主な目的の一つは、インターネットの繋がりがこの世代の見解、信念、行動に与える影響を調査することでした。

日本のティーンズの1日の平均オンライン利用時間は6時間6分で、世界平均を下回っています。中でも16-17歳のティーンズは、1日のオンライン利用時間が最も短くなっています。

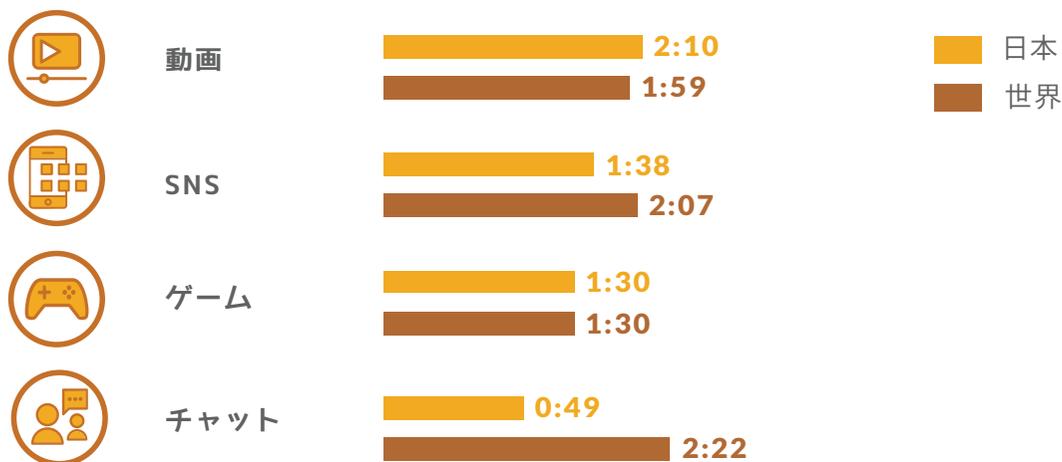
ネット利用の合計時間



年齢別のネット利用時間



アクティビティごとの利用時間



日本のティーンズがネット上で最も時間を費やしている使用法は、NetflixやYouTubeなどの動画視聴であり、次いでSNSやゲームでした。また、日本のティーンズは、世界の同世代のティーンズに比べて、毎日の会話やメッセージ、チャットに費やす時間はとても少ないです。

¹ データは2020年2月 - 3月において収集されたことをご注意ください。また、回答者には学校のためにオンラインで費やす時間を除外するという指示は致していません。

ティーンズの92%が毎日動画を見ている。

一定のティーンは、インターネット上でとても多くの時間を過ごしています。約6人に1人は、1日に10時間以上インターネットを利用する「ヘビーネットユーザー」と呼ばれるティーンです。18-19歳のティーンは、ヘビーネットユーザーである割合が最も高いです。

ティーンとSNS

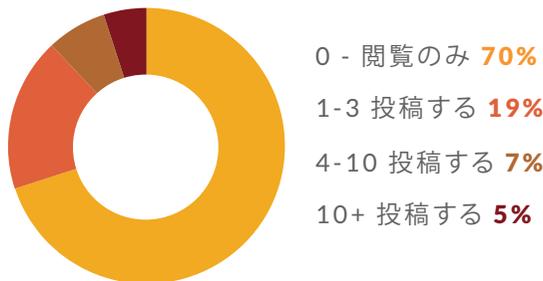
日本のティーンズの5人に4人以上が、主に情報収集や友人・家族とのコミュニケーションのために、SNSを毎日利用しています。しかし、毎日投稿していると答えたティーンはわずか30%で、大半は「閲覧するだけ」と答えています。



SNSを利用する理由¹：

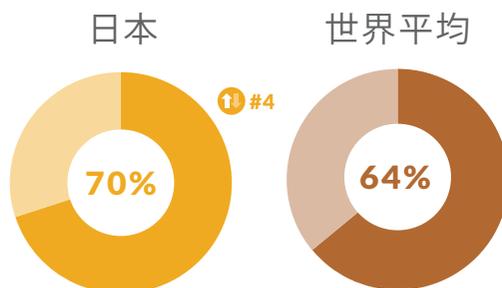
1. 情報収集に役立つ：63%
2. 友人や家族との連絡：42%

1日におけるSNSへの平均的な投稿数



日本のティーンは、SNSについて、複雑な思いがあるようです。SNSが自分の生活に満足感を与えてくれると答えた割合は、調査した世界のティーンの中で4番目の多さでした。一方で、「悲しみ、不安、落ち込みなどのネガティブな感情を抱くことがある」と答えた割合も4番目となりました。

SNSは自分の人生に満足感を与えてくれる



↑ ↓ 調査した20か国中の順位

¹ なお、この質問では回答者は最大2つの回答を選ぶことができるため、パーセンテージの合計は100%にはなりません。

SNSを見ると、悲しくなったり、不安になったり、憂鬱になったりする



調査した20か国中の順位

日本のティーンは、SNS上のプロフィールの信頼性についても意見が分かれました。SNSに投稿するすべての内容が、自分の本当の姿であると答えた割合は、半数を少し下回る程度でした。13-15歳は、18-19歳に比べて、これを否定する割合が高かったです(60%対44%)。

私がSNSに投稿するものは、すべて本当の私の姿です



インターネットの影響

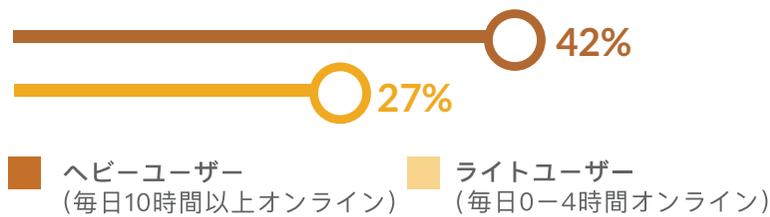
利用習慣やオンラインの時間について、ティーンたちから様々な回答が寄せられました。そこからティーンたちをインターネットのライトユーザー(毎日0~4時間)とヘビーユーザー(毎日10時間以上)に分類しました。この二つの分類に違いがあることは明確でした。

日の平均オンライン時間

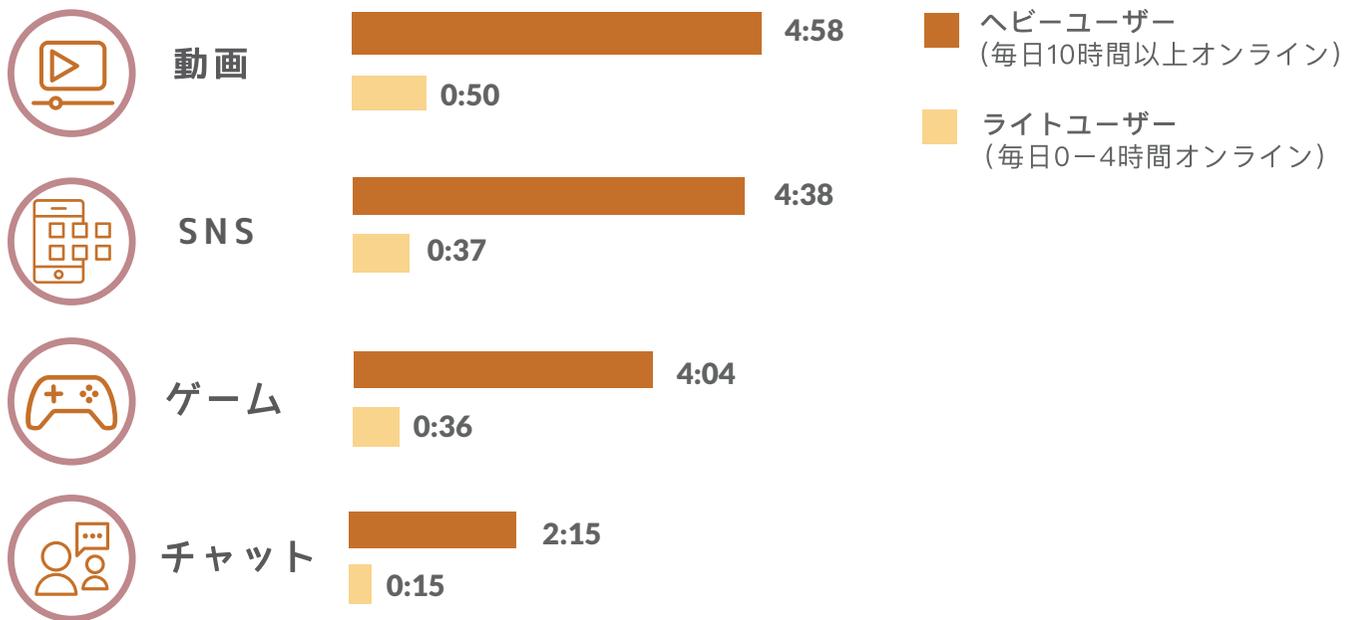
ヘビーユーザー: 毎日13時間
ライトユーザー: 毎日3時間

ライトユーザーとヘビーユーザーでは、ネット上での活動の優先順位は同じですが、それぞれの活動に費やす時間は大きく異なります。例えば、ヘビーユーザーは1日に10時間近くオンラインビデオの視聴やSNSを利用しているのに対し、ライトユーザーは1.5時間程度です。また、ヘビーユーザーは、閲覧よりもSNSでコンテンツを投稿することに多くの時間を費やしています。興味深いことに、SNSに投稿する情報は、自分の本当の姿を反映していると答えた割合は、ライトユーザーもヘビーユーザーも約同数です(46%対47%)。

毎日SNSに投稿する



活動ごとの利用時間

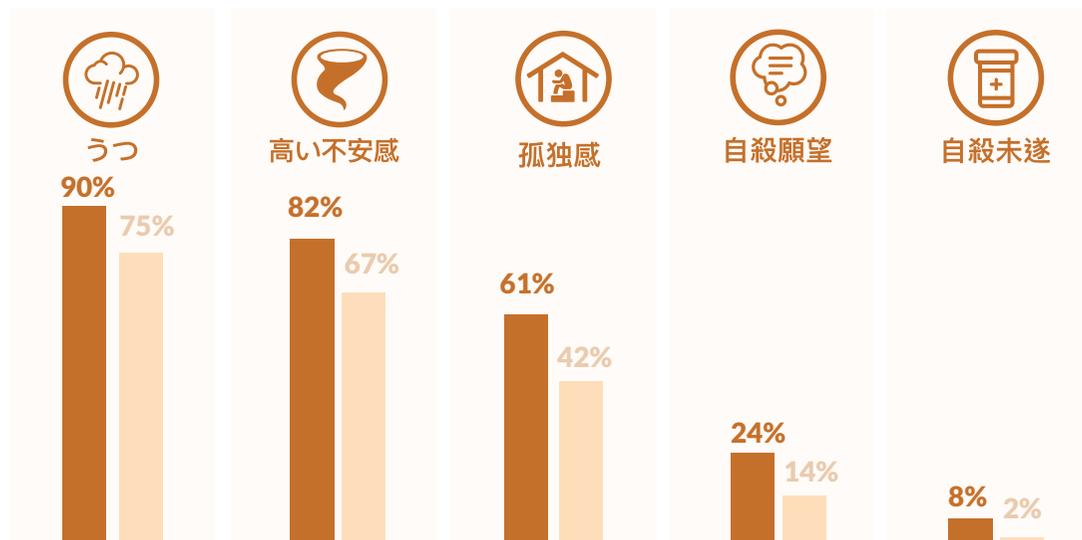


オンライン利用時間別のメンタルヘルス

■ ヘビーユーザー
(毎日10時間以上オンライン)

■ ライトユーザー
(毎日0-4時間オンライン)

過去3ヶ月の間に経験した:



ヘビーユーザーは、インターネットをあまり利用しないティーンに比べて、よりメンタルヘルスの問題を抱えています。孤独感、憂鬱感、不安感、さらには自殺願望や自殺未遂を訴える割合が、インターネットをあまり利用しない人よりも高くなっています。

当然これらの調査結果は深く憂慮すべきものです。しかし、ネット利用時間とティーンの抱える葛藤との間にどのような相関関係があるのかはまだ、はっきりしてはいません。今回のデータは、両者の間に何らかの関連性があることを示していますが、どちらが先行しているのかは判断できません。インターネットを頻繁に利用することがティーン的生活における葛藤を助長している可能性はあるものの、すでにメンタルヘルスの悩みを抱えているティーンが逃避の手段としてインターネットに頼っている可能性もあるからです。

現実生活での体験とインターネットとの複雑な関係を模索しているのは、日本の若者だけではありません。このような傾向は、調査対象となった20カ国全体で見られました。

結論

この世代にとって、ネット上での生活とそこでの人間関係と、現実での生活と人間関係を同時に管理しながら生きることは当たり前になっています。日本のティーンは、世界の若者に比べてネット上で過ごす時間が少ないものの、インターネットは生活の中で常に存在し、日々彼らに影響を与え続けています。この世代と接する人は、これらのプラットフォームが今日のティーンに与えている影響を考慮する必要があります。

- **動画は非常に人気があります。**
動画はすべてのティーンの日常生活の一部となっており、若者に届くための強力な手段となります。ティーンや若者は、YOUTUBEやNETFLIXのようなプラットフォームで毎日ビデオコンテンツを見ます。動画という魅力的なメディアを用いて、若者にキリストを伝えるにはどうすれば良いのでしょうか。
- **SNSは複雑な感情を生みます。**
日本のティーンたちは、調査した他の国々に比べ、SNSが自分の生活にプラスになると答えた割合は多かった一方で、マイナスな感情を抱くことがあると答える人も多かったです。また、約半数が、自分のネット上のプロフィールは、本当の自分を表していないと答えています。若者たちがネット上での複雑な人間関係を舵取りするのを助け、またSNSのメリットを生かして、この世代とつながり、この世代に仕えるために、私たちはどのようなことができるのでしょうか。
- **スクリーンの向こう側にいる若者たちは、深い悩みを抱えているかもしれません。**
必ずしもテクノロジーがこれらの問題を引き起こしているとは言いきれませんが、ネット上で多くの時間を過ごしている若者たちが、深刻なメンタルヘルスの問題を抱えていることは明らかです。私たちはどのようにして若者に寄り添い、彼らが直面している状況の中で健全な考え方をするように励ますことができるのでしょうか。

ティーンたち への影響と 指導的な存在

日本の調査

発見したこと

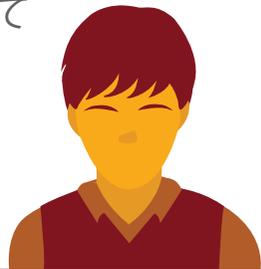
ティーンたちは、何が正しく、何が間違っているのか、人生の意味は何かなど、人生で最も重要な課題を考える時には、家族の意見がもっとも参考になると答えています。



ジェンダーやセクシュアリティのトピックについては、インターネットやSNSが主な情報源となっています。



クリスチャンのティーンでも、牧師や聖書にアドバイスを求めることはほとんどありませんが、4人に1人は、宗教指導者の教えに基づいて、宗教的信条についての考え方を変わると答えています。



日本のティーンの**3人に1人**は、自分にとって重要なトピックについて、両親によく相談すると答えています。



10人のうち7人のティーンは、自分のことをよく知っている親しい友人がいると答えています。これは世界的に見ると最も低い割合となっています。

日本のティーンの**76%**は、自分の家族との経験は全体的に良かったと答えています。これは世界的に見るととても低い割合です。



クリスチャンのティーンは、善悪についての情報を得るために、友人や仲間に相談することが多いです。

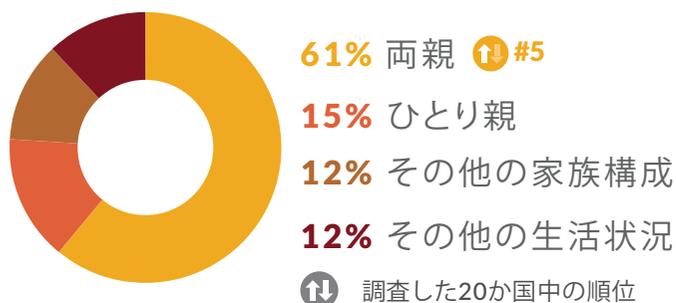


家族・友人関係

日本のティーンのおおむね多くは、両親のいる家庭に住んでいると答えています。また、ティーンのおおむね4人に3人が「家族との経験はおおむね良好」と答えています。しかし、これは世界的に見るなら最低レベルの数値です。

ティーンに、親との親密さを知るために重要な、会話の頻度を答えてもらいました。ティーンのおおむねは、「重要な課題について親と話すことがある」と回答していますが、「頻繁に話す」と回答したのは3人に1人でした。

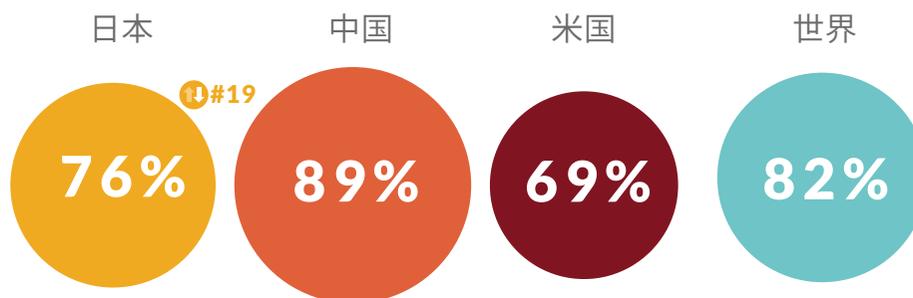
家庭について



家族の満足度

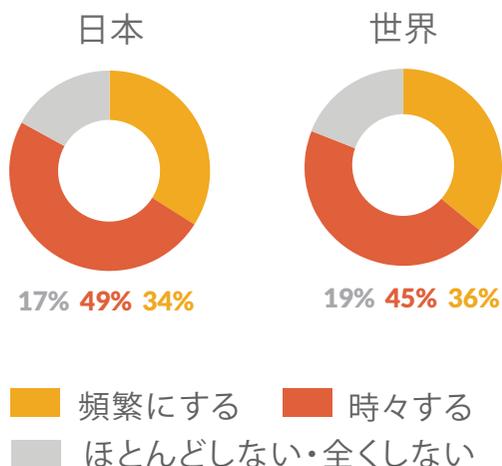


全体的に、私の家庭での経験は良いものです。



親との会話

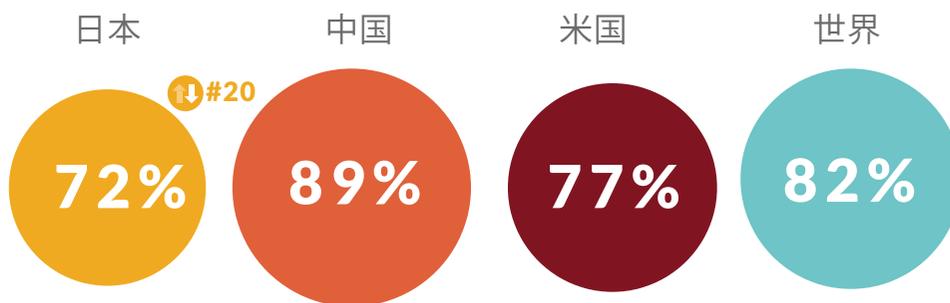
自分にとって重要な事柄について、
両親や保護者に相談している



日本のティーンの大多数は、家族以外との人間関係は良好であると答えています。10人中7人が、自分のことをよく知っている親しい友人がいると答えていますが、これは世界的に見ると最も低い数字でした。



自分のことをよく知っている親しい友人がいる



📍 調査した20か国中の順位

10人のティーンの内7人は、
自分のことをよく知っている親しい友人がいる

ティーンたちは誰の声に耳を傾けるのか

ティーンたちは様々なことに意見を持っていますが、その意見が単独で形成されることはほとんどありません。私たちは、何がこの世代に最も大きな影響を与えているのかについて関心を持ちました。導きやアドバイスを求める時、彼らは誰に信頼を向けるのでしょうか。人生で最も重要な問いに直面したとき、彼らは誰の声に耳を傾けているのでしょうか。この調査は全ての要素を網羅しているわけではありませんが、今日のティーンたちがどのように自らの視点を形成しているのかについて、いくつかの洞察を得ることができました。

ティーンは家族を信頼している

今回の調査は、家族がティーンたちにとって重要な指針となっていることを明らかにしました。ティーンたちは、人生の意味や何が正しくて何が間違っているのかなどの人生で最も重要なトピックについて家族に相談することが最も多いと答えています。他の頻繁な相談相手としては友人や仲間、SNSが挙げられます。

道徳的なガイダンスについては、男子と女子では影響の受け方が若干異なるようです。女子は男子よりも家族に相談する傾向が強く、男子は女子よりも友人に相談する傾向が強いことがわかりました。

善悪に関する会話



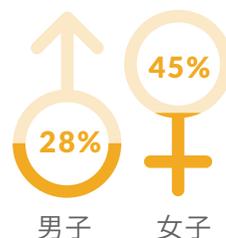
どこから最も頻繁に善悪に関する情報や導きを得ているか

- 1 家族 37% (世界 50%) #18
- 2 友人・仲間 26%
- 3 インターネット・SNS 21%
- 4 インターネット以外のメディア 8%
- 5 先生・カウンセラー 7%
- 6 宗教指導者・聖典 7%

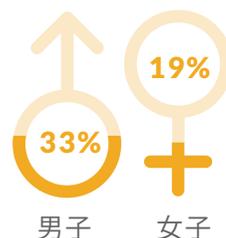
↑ ↓ 調査した20か国中の順位

どこから最も頻繁に善悪に関する情報や導きを得ているか

家族



友人・仲間



人生の意味に関する会話



どこから最も頻繁に人生の意味に関する情報を得ていますか

- ① 家族 39% (世界 41%)
 - ② インターネット・SNS 27%
 - ③ 友人・仲間 22%
 - ④ 先生・カウンセラー 6%
 - ⑤ インターネット以外のメディア 5%
 - ⑥ 宗教指導者・聖典 1%
- 調査した20か国中の順位

インターネットという導き手

私たちがティーンたちに尋ねたもう一つの分野は、ジェンダー、セクシュアリティ、そして性に関するトピックでした。他の分野と異なり、これらの話題に関しては、インターネットが主な情報源になっています。世界的に見ても、日本のティーンは、これらのトピックに関する情報をSNSやオンラインの情報源に頼る傾向が非常に強いことがわかりました。日本のティーンは、これらの話題に関して、家族に相談するよりも約5倍の割合でインターネットから情報を求めています。

意外ではないかもしれませんが、インターネットを利用する時間が長いティーンは、ジェンダーや性に関するトピックについてSNSを参考にする傾向がさらにはっきりしています。インターネットのヘビーユーザーの内、「SNSから最も影響を受けている」と答えた割合が64%なのに対し、ライトユーザーの間では、47%にとどまっています。¹

¹ ここにおける「ヘビーユーザー」とは、1日に10時間以上インターネットを利用すると回答した人を指します。「ライトユーザー」に該当する回答者は、1日のインターネット利用時間が0~4時間であると回答したティーンです。

ジェンダーやセクシュアリティに関する会話

ジェンダー、セクシュアリティ及び性的なトピックに情報をどこから得ているか



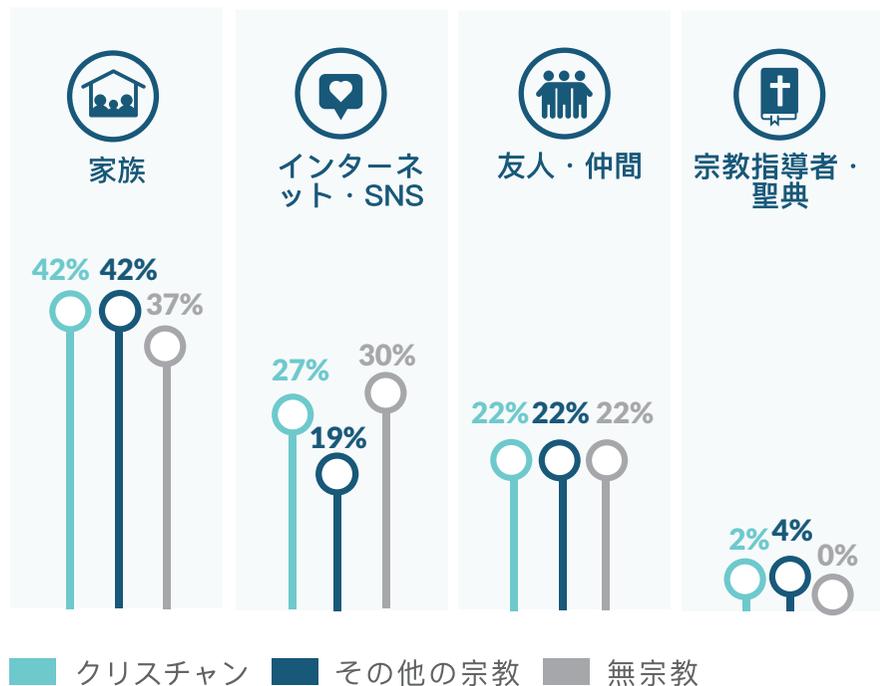
- ① インターネット・SNS 53% #2 (世界 36%)
 - ② 友人・仲間 20%
 - ③ 家族 11%
 - ④ インターネット以外のメディア 9%
 - ⑤ 先生・カウンセラー 6%
 - ⑥ 宗教指導者・聖典 1%
- 調査した20か国中の順位

宗教の果たす役割

ティーンが人生の意味についての指針を求める際には、宗教に答えを求めることは少ないです。人生の意味の問いについて、クリスチャンのティーンは、他の宗教を信じる若者と同様の割合で家族に相談し、無宗教のティーンと同様の割合でインターネットから情報を得ることが分かりました。宗教指導者や聖典を参考にするティーンはほとんどいません。

宗教別ティーンへの影響

どこから最も頻繁に人生の意味に関する情報を得ていますか



クリスチャンティーンの結果に注目すると、この世代のクリスチャンは、質問したすべてのトピックにおいて、牧師や聖書に頼ることがほとんどありませんでした。宗教指導者や聖典は、彼らのリストの中で常に最も低い影響力となっていました。

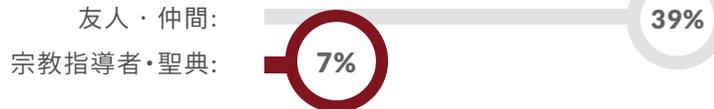
クリスチャンのティーンへの影響

最も大きな影響力

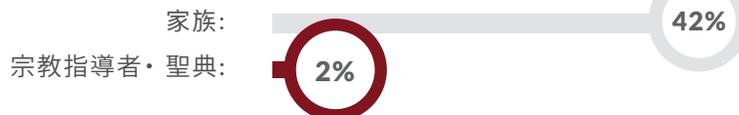
宗教指導者・聖典の影響力



善悪



人生の意味



ジェンダーとセクシュアリティ



あなたの宗教的信条
について考えを変える
可能性が高いもの:

- 1 宗教指導者の教え: 24%
- 2 友人との会話: 24%
- 3 祈りが聞かれるなどの個人的な経験: 20%
- 4 親との会話: 17%
- 5 インターネットや書籍に基づく個人的な調査: 15%

しかし、牧師は依然として重要な役割を担っており、ティーンは宗教指導者を尊敬しているようです。クリスチャンのティーンは、宗教的信念を変える最も影響あるものとして、宗教指導者の教えを挙げています。また、友人との会話も同様に影響力があると考えられています。

この世代をより深い信仰へと訓練するためには、ティーンが誰に耳を傾けているかを知ることが重要です。人生において最も重要な問題について、彼らがどこに指針を求めているのかを知ること、彼らが尊敬する人々を通して私たちは彼らに働きかけることができるかもしれません。

- **親は大切な役割を担っています。**
ティーンにとって、家族は重要な会話の相手であり、人生において何を信じるかを選択する時に影響を与えると答えています。親には、子どもたちを訓練する機会が日々数え切れないほどあります。私たちはどのようにしたら親をサポートしていくことができるでしょうか。
- **コミュニティは極めて重要です。**
ほとんどのティーンが、家族や親しい友人との関係について肯定的に報告していることは心強いことです。特にクリスチャンのティーンは、友人や仲間からの助言を頼りにしています。ティーンが深い人間関係を築き、同年代や、人生経験が豊富で知恵のある大人から賢明な助言を得られるように、私たちはどのように手助けできるでしょうか。
- **インターネットはますます頼りにされる情報源になっています。**
ジェンダーやセクシュアリティについて知りたいとき、ティーンはインターネットが提供する安全性と匿名性を好みます。インターネット上のコンテンツは、ジェンダーやセクシュアリティに関する知識のギャップを埋めており、そこには様々な情報が溢れています。どうすれば、ティーンが、自らのアイデンティティやセクシュアリティについての答えを探す際に、意義のある聖書的なコンテンツに触れることができるでしょうか。
- **牧師は影響力を持っています。**
たとえティーンがあまり関心を払ってないように見えても、クリスチャンが何を信じるかを決める上で、宗教指導者の教えは非常に重要であるという結果が出ています。この世代が、聖書的視点をもって取り組むべき課題は様々あります。教会はどのようにして、ティーンにとって有効な方法で、聖書のメッセージを語るることができるでしょうか。

教育とキャリア

日本の調査

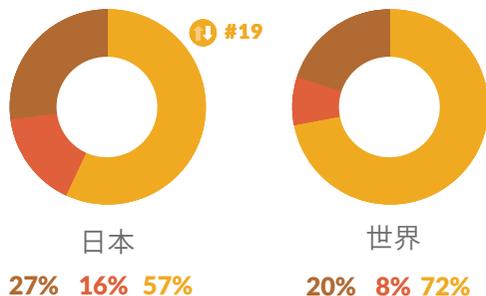
未来への展望

私たちは、この世代が将来に向けて、どのような進路目標やキャリアの優先順位を持っているのかを知りたいと考えました。日本のティーンの大多数は、「よりよい未来を保証してくれる第一のものは教育である」と考えています。しかし、今回の国際調査において、日本の数字は、調査した国の中で2番目に低いものでした。日本の女子と男子は、教育に対してほぼ同様の考えを持っていました。

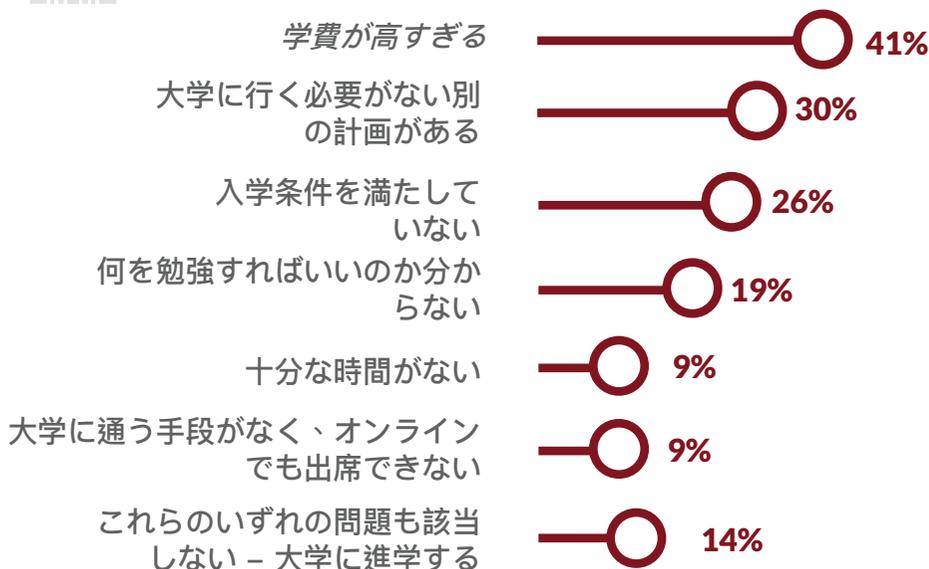


教育は、より良い未来を保証してくれる最善の方法である

● はい ● いいえ ● 賛成でも反対でもない ⓘ 調査した20か国中の順位



大学への進学を阻むもの



なお、この質問では回答者は最大2つの回答を選ぶことができるため、パーセンテージの合計は100%にはなりません。

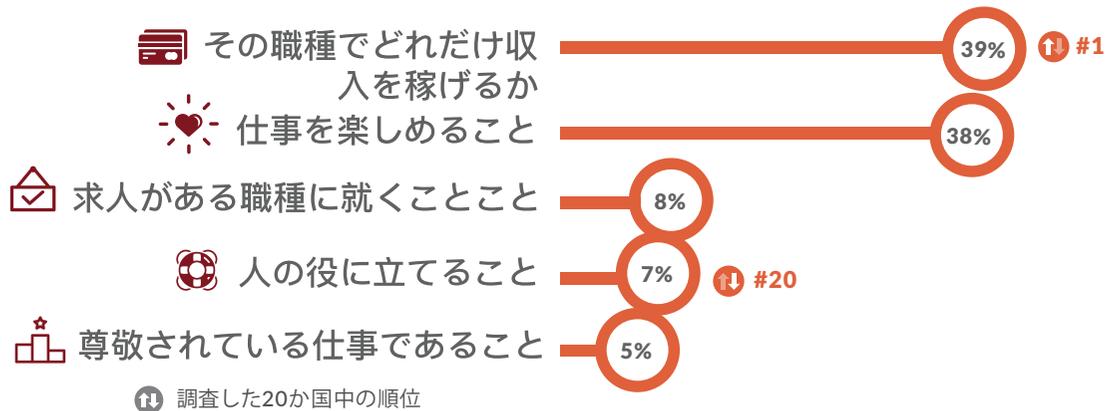
¹ 日本では、高校卒業者の半数以上が大学に進学しています。しかし、私たちの調査によると、日本のティーンの多くは、大学進学を阻む問題を幾つか挙げていました。大学に通うための費用がかかることや、必要な条件を満たしていないこと、何を学ばよいかわからないことなどが挙げられています。ティーンのうち10人中3人は、大学に行く必要がない別の計画があると答えました。しかしその一方で、ティーンの約7人に1人(14%)は、これらの課題のどれにも当てはまらず、間違いなく大学に行くことと答えました。

¹ 文部科学省、学校基本調査 2019. P. 5
https://www.mext.go.jp/content/20191220-mxt_chousa01-000003400_1.pdf

キャリア

将来のキャリアにおいて何を最優先するかについては、ティーンの中で意見が分かれま
した。最も多かった回答は、「その職種でどれだけ収入を稼げるか」でした。日本のティ
ーンは、世界の同年代と比べ最も金銭面に焦点を当てていました。しかしその一方で、ほ
ぼ同数が、「仕事を楽しむこと」を最優先すると答えました。

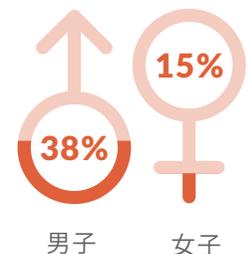
将来のキャリアにおいて最も重要なこと：



日本のティーンは、今回の国際調査で最も起業家精神に欠けていました。将来、ビジネスを始めたり、会社を所有したりしたいと答えたのは、わずか26%でした。男子は女子の2倍以上の割合でこのような願望を持っていましたが、起業家精神を持つという点では、世界の同世代の若者に比べてはるかに低い数値でした。



将来、起業したり、自分の会社を持ちたいと思っている



OneHopeについて

OneHopeは世界中の教会、ミニストリー、政府と協力して、16億人以上の子供たちと青少年に神の御言葉を届けてきました。OneHopeはそれぞれの国で行う調査に基づき、その国の青少年の年齢、文化、状況に適した聖書プログラムを作っています。1987年の創立以来、OneHopeは、人生を変える聖書の希望のメッセージを、各国の青少年に伝えてきました。 onehope.net

お問い合わせ

OneHope 日本ディレクター 宇賀飛翔 hishouga@onehope.net

Copyright © 2021 by OneHope, Inc.

OneHope. (April 2021). *Global Youth Culture, Japan Report*. www.globalyouthculture.net



世界のユース文化調査